

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報

2009.5.15

No. 43

連絡先 042-555-1911



## 新型インフルエンザ 横田基地の検疫体制はどうなっているの？

5月1日午前8時20分、母親とともに米シアトルから米軍チャーター機で横田基地に到着した米国籍の生後4カ月乳児が、発熱症状があったため横田基地で簡易検査を実施したところ、A型インフルエンザの陽性反応を示し、母親とともに同基地内の医療施設で隔離されました。このチャーター機は約270人が乗っており、母子の周囲の米軍関係者13人も、感染していないことが確認されるまで隔離されました。在日米軍は2日午前、乳児の検体を国立感染症研究所に送りましたが、3日未明に、新型インフルではなくソ連型だったことが分かりました。

### 東京都「国内発生には該当しないため、対策本部等の設置は考えていない」

米軍横田飛行場におけるA型インフルエンザ陽性反応者について福生市が東京都総合防災部に確認したところ、「航空機内での検疫の結果、隔離されたものであるので、国内発生には該当しないため、東京都は対策本部等の設置は考えていない」とのことでした。(国内発生じゃないの!)

### 「米軍人等が米軍施設・区域に入国する場合」日本は検疫を実施しない？

米軍施設・区域における検疫体制については日米合同委員会(平成8年)で合意しており、「米軍人等が米軍施設・区域において我が国に入国する場合を除き、日本の当局が検疫を実施する」ということのようにです。在日米軍基地は日本にあるのにおかしいですね。

例えば、横田基地の人々は、日常的に買い物などで基地外にでるし、有名な福生の七夕祭りにも参加します。横田基地内の住宅からは、日本の学校に通っている子どもたちもいるのです。

### 横田基地に関する東京都と周辺自治体が、在日米軍・横田基地に要請

横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会は、①新型インフルエンザ感染拡大防止のための適切かつ万全な予防措置を講じるとともに、具体的な措置状況を速やかに情報提供すること、②今後新たに、簡易検査でA型インフルエンザの陽性反応者が判明した場合には、その事実を速やかに情報提供するとともに、その後の状況についても、適宜情報提供すること。を、在日米軍司令官エドワード A ライス中将、在日米軍横田基地第374空輸航空団司令 J. マーカス ヒックス大佐官に要請しました。(J. マーカス ヒックス大佐官は、4月に就任。)

### 「在日米軍にも日本のルールを厳格に守らせよ」小池議員、国会で追及

「しんぶん赤旗」(5月9日付)によると、日本共産党の小池晃議員は8日の参院厚生労働委員会で、新型インフルエンザ対策で重視されている入国時の検疫など「水際」対策を強化するために「在日米軍にも日本のルールを厳格に守らせよ」と迫りました。

小池氏は、米軍人や関係者の出入国の人数について「把握しているのか」と質問。外務省は、「米側からしかるべく定期的に通報を受けている」としながらも、在日米軍基地から直接入国する人数などの具体的な内訳も含めて、「(日米間に)公表する合意がないので、公表していない」と答弁。米軍基地での検疫官の人数についても、「米軍はすべての施設区域で検疫官を配置している」「数は承知していない」などと述べました。小池氏は、「数が分からないのに、置いていると答えるのは矛盾ではないか。これではとても独立国とはいえない」と批判。梅本局長は、検疫法も感染症法も在日米軍は適用外と認めた上で、米側に「追跡調査を行うよう申し入れている」と答弁。「お願い」しているだけであることが明らかになりました。

# 新型インフルエンザ（ブタ由来インフルエンザA/H1N1）感染情報

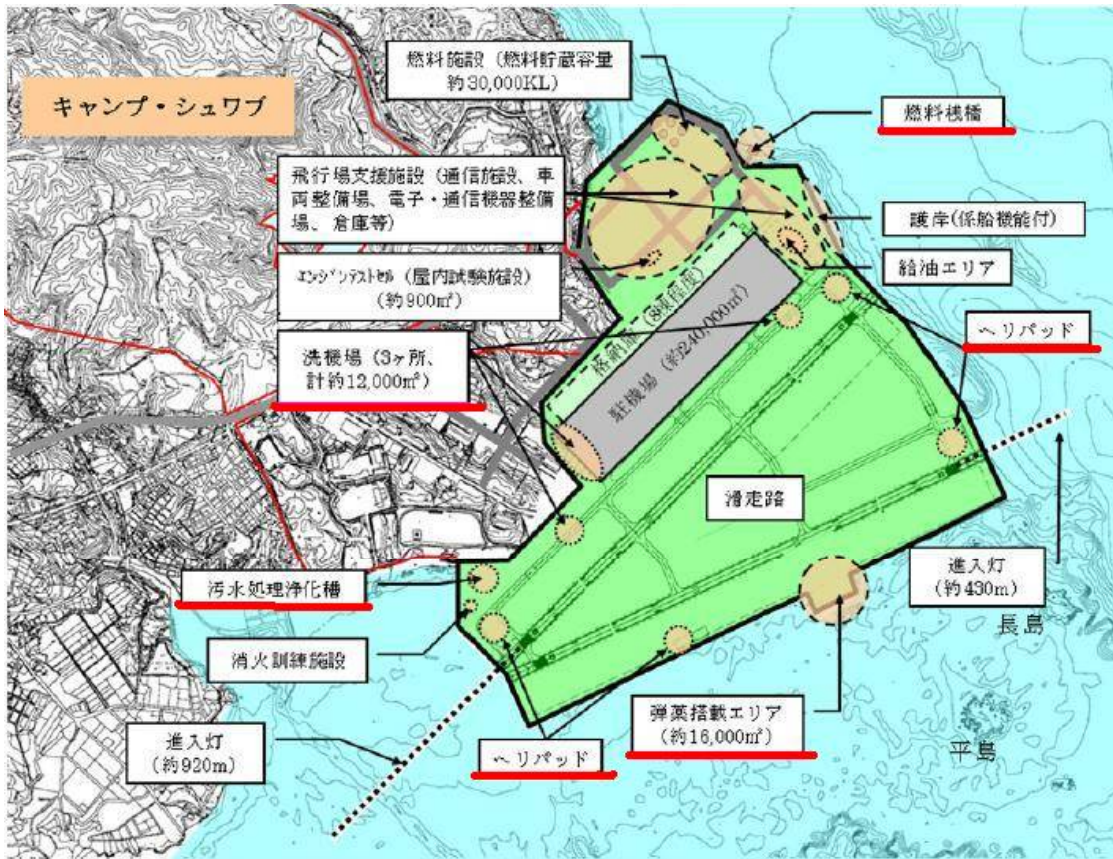
WHO などによると、2009年5月13日午前10時00分（日本時間）現在、世界中で30カ国において5,000例以上の新型インフルエンザ感染の確定例が報告されており、内訳はアメリカ合衆国2,600例（アメリカCDCによれば3,009例）、メキシコ2,059例、カナダ330例（カナダ政府によれば358例）などである。死亡例はメキシコ56例、アメリカ3例、カナダ・コスタリカ各1例の計61例である。日本では、5月8日にカナダから帰国した日本人4名が入国前（3名）および停留中（1名）に新型インフルエンザA(H1N1)感染確定と診断されている。（2009年5月14日10時更新）（国立感染症研究所・感染症情報センターHPより）

## 数千万人の命を奪った「スペインかぜ」はこうして広がった（赤旗・潮流 5/3 付より）

いまから90年ほど前に大流行し、数千万人の命を奪ったインフルエンザ「スペインかぜ」。しかし、スペインで発生したわけではありません▼初めて現れた地は、アメリカだった、とみられています。1918年春、第一次大戦の最後の年です。ドイツ軍が西部戦線で攻撃に転じ、対してアメリカは、急いで兵士をヨーロッパに送り込みました。▼ウイルスは、米兵に運ばれ欧州へ。まず軍隊で感染が広がります。イギリス軍、フランス軍、ドイツ軍…。やがて世界中に伝わりました。しかし、まだ終わりません。8月、新たな大流行が始まります▼同時多発でした。アフリカのシエラレオネ。米軍が上陸するフランスの港。米軍が出航する米ボストン。ウイルスは、世界を巡るうちに変身していました。強い毒性。お構いなしに全米で、戦費をまかなう公債の購買を呼びかける集会が開かれます。ウイルスは、人ごみから感染してゆきます▼アメリカの行政や新聞は、戦争熱にとりつかれてインフルエンザを軽くみていました。人も金も戦争につきこみ、インフルエンザ対策は後回しに。ちなみに、「スペイン」の名は次の事情からついたようです。参戦していなかったスペインは社会不安を隠さなくてもよく、もっぱらスペインでの流行が世界に伝えられた一。（以下、略）

## 沖縄県・名護市・辺野古の新基地計画はこんなにひどい！【ジュゴンもびっくり】

### 沖縄防衛局が「準備書」で示した 飛行場の配置計画



### 対象事業の規模

- 飛行場・滑走路の長さ 1,600m (2本)
- 公有水面の埋立て 約160ヘクタール
- 埋立に必要な土砂 2,100万立方メートル

### 主な飛行場施設

進入灯、燃料栈橋及び燃料関連施設、格納庫、駐機場、洗機場、弾薬搭載エリア、ヘリパッド、汚水処理浄化槽、護岸。

(上図・赤色下線は「方法書」の修正段階での追加や、今回「準備書」で追加。基地機能が強化されている。)